

ゆかりの人々
People

ゆかりの人々 > 知られざる偉人 > 飯沼金太郎さん

飯沼金太郎さん 飯沼の業績

民間航空界の人材を育成・輩出し、その発展に貢献

1933（昭和8）年から1940（昭和15）年までの短期間の運営ではあったが、亜細亜航空機材研究所を母体とした亜細亜航空学校、亜細亜航空機関学校は、操縦・設備・機材が一体であり、かつ飛行場の設備・規模・所有機数などから、日本の3大民間航空学校の1つに挙げられたほど充実した学校であった。中でも、亜細亜航空機関学校は、国内初の独立した民間航空機関学校であるとともに、同校の発動機実習工場の規模は「東洋一」と言われた。両校は、閉校までに700人から800人に及ぶ民間航空人を育成したといわれている。両校で育成、輩出した人材は、日本民間航空界のすそ野を広げ、その発展に貢献しているといっても過言ではないだろう。その拠点が杉並区にあったのである。

民間航空界で活躍した卒業生

主な卒業生には小田切春雄がいる。陸軍飛行将校となった小田切は、軍に納入する部品検査のため中島飛行機荻窪工場に来ており、工場の技術者達と親交を結んでいる。戦後は日本航空のパイロットとなり、天皇座乗機の機長を務め、1971（昭和46）年常務取締役となり、翌年発生したハイジャック事件を解決に導く。また、指定飛行機練習生（練習生の中から特に優秀な学生を選抜・学費免除）の小田泰治は、後に日航航務安全保安監査室長となり、安全運航のために優れた手腕を発揮した。その他にも、亜細亜航空学校は多くの優秀な人材を民間航空界に送り出した。

航空学校初の女子部開設と海外飛行を成功に導く

亜細亜航空学校は他の民間航空学校に先駆けて、女性パイロットを積極的に公募し育成、輩出したことでも注目される。なかでも、松本キク子、馬淵テフ子は、東京・満州新京間の海外飛行に成功する快挙をなし遂げている。松本はこの功績により、国際航空連盟から、ハーモン・トロフィーを授与された。後に松本は、日本婦人航空協会理事に迎えられ、航空界に復帰、後進の女性の指導にあたっている。飯沼は、国内で初めての女子部を開設、女性操縦士の育成に理解を示しただけでなく、2人の日本女性初の海外飛行を成功に導いた。日本女性の操縦技術の能力を内外ともに示した功績は大きい。

民間航空界への貢献に対し表彰される

飯沼は、国及び民間航空団体から、これまでの民間航空界の貢献に対し、次の表彰を受けている。

- ・1940（昭和15）年3月、逓信省にて民間航空界功労者として表彰、賞状と金一封贈られる
- ・1940（昭和15）年9月、航空功労者として帝国航空協会より、表彰を受ける